



留学生国知版 vol.15



# COSMOS

JAPAN / KOREA / CHINA / MALAYSIA / BANGLADESH  
BRAZIL / INDONESIA / TAIWAN / VIETNAM / THAILAND  
AUSTRALIA / ARGENTINA/INDIA/KAZAKHSTAN

## ごあいさつ

日本はグローバル化を促進しなくては将来はないと叫ばれ、日本国も本腰で国際化に取り組み始めています。

留学生を現在の2倍以上の30万人、日本人の海外留学も2倍に増やすことを決定しました。

飯塚市には2大学をもち、沢山の留学生を迎え彼等と接触する機会をもつことで、自然に国際化を体感出来ることは幸いなことだと思っています。

更に留学生を通し、相手国を知り理解していくことが必要と考えます。留学生も自国の代表者としての誇りを持ち、勉学研究のみでなく、大使として自国を日本人にアピールする義務があると考えています。

昨年、アメリカ、シリコンバレーのサニーベール市と友好都市提携が成立しました。すでに学校間の交流が始まり、今年から学生のホームステイ交流が実現します。

飯塚市は世界をリードしているサニーベール市と繋がったことは明るい未来（青少年育成を通し）への期待を膨らましました。

アジアにおいても元留学生からの働きがけでインドネシアとの交流の動きがきています。

友情ネットワークは従来通り留学生支援活動を続けていきます。同時にサニーベール市との交流促進事業も行うことになりました。

飯塚市の未来は明るいものと思います。

今後とも更なるご協力をよろしく申し上げます。



福岡城 修

飯塚友情ネットワーク代表  
縄田 修

## サニーベール市についての紹介

正田英樹

サニーベール市はアメリカのカリフォルニア州にあり、IT（情報技術）の世界の中心であるシリコンバレーの中心都市の1つです。



市内にYahoo!本社、すぐ近くには有名なアップルコンピュータやGoogleの本社があり、住民の多くは優秀な技術者が経営者です。現在のジム・グリフィス市長もアップルコンピュータの幹部でもあります。



(ジム・グリフィス市長)



(Yahoo!本社)

治安も全米でも5本指に入るほど安全なまちで、地域の教育水準も極めて高いため、現在人口約14万人ですが少しずつ増え続けています。金銭的にも豊かで平均世帯収入が2,000万円を超え、地域の不動産価値も高く1億円以下の住居はほとんど無いと言われています。

住民の構成としては2010年の調査では白人43%、アフリカ系2%、アジア系41%、ヒスパニック系19%との事ですが、多くの住民はかつて世界中から成功を求めてこの地に集まった人々です。在留日本人は2,137名（2011年調査）との事です。平均年齢は35.6歳で若者が多いまちとなっています。

気候は年間を通じて暖かく、空気も乾燥していますので、気温が高い日もそれほど暑く感じず、とても過ごしやすい地域です。

市の歴史としては、1770年にスペイン人に発見されるまではアメリカ原住民が住んでいたとの事です。その後スペイン人により開発が進み、麦畑や牧場となり、さらに果樹園として発展して行ったとの事です。第2次世界大戦ごろから市の主要な産業は製造業やハイテク産業に代わり、やがて世界中から優秀な技術者や経営者が集まるシリコンバレーの主要都市の1つとなって行ったとの事です。

サニーバール市として友好都市を望む目的は、将来を担う青少年交流とその先にはテクノロジーを生かした交流も期待しているとの事でした。そこに飯塚市の青少年の教育にかける熱い思いと提携に向けたスピーディーな動きが日本国内の他の自治体を上回り友好都市提携に成功しました。



（2013年11月26日サニーバール市 市議会にて  
齊藤市長と当時のサニーバールのスペタレリ市長  
【左】、在サンフランシスコ日本国総領事館 渡邊総  
領事【右】）

現在は、二瀬中学校とサニーバールミドルスクール、嘉穂東高校とフリーモント高校が積極的な交流を開始しています。



（サニーバール市内のフリーモント高校）

今後サニーバール市としても両国の生活習慣、文化、技術（ロボテックなど）をはじめ幅広い交流を期待しています。



国立大学法人 九州工業大学

---

## 平成 26 年度 学 年 曆 (情報工学部)

区 分	事 項	期 日 又 は 期 間
前 期	春季休業	4月1日(火)～4月7日(月)
	新入生オリエンテーション	4月3日(木)、4月7日(月)
	入学式	4月4日(金)
	前期授業期間	4月8日(火)～8月11日(月)
	学生定期健康診断	4月2日(水)～4月3日(木)、4月7日(月)
	開学記念日 (授業は開講)	5月28日(水)
	前期授業調整期間	7月18日(金)～7月23日(水)
	前期末試験	7月24日(木)～8月4日(月)
	夏季休業	8月12日(火)～9月15日(月)
	前期再授業期間	9月16日(火)～9月26日(金)
後 期	後期授業期間	9月29日(月)～2月24日(火)
	臨時休業	11月21日(金)
	第54回工大祭	11月22日(土)～11月23日(日)
	臨時休業	11月26日(水)～11月28日(金)
	推薦入試	11月27日(木)～11月28日(金)
	冬季休業	12月24日(水)～1月5日(月)
	平成27年度大学入試センター試験	1月17日(土)～1月18日(日)
	後期授業調整期間	1月27日(火)～1月28日(水) 2月2日(月)～2月3日(火)
	後期末試験	2月4日(水)～2月12日(木)、2月16日(月)
	卒業論文発表会 (授業は全て休講)	2月23日(月)
	臨時休業	2月25日(水)
	後期再授業期間	2月26日(木)～3月3日(火)
	臨時休業	3月11日(水)～3月12日(木)
学部卒業式・大学院学位記授与式	3月25日(水)	

氏名	性別	国籍	所属学科	学年
**学部正**				
シンソムブン カウイー	男	タイ	機械情報工学科	1年
金 載潤	男	韓国	知能情報工学科	2年
ムハマト ハシール ビン ムハマト アズライ	男	マレーシア	生命情報工学科	2年
ヘイン シウホン	女	カンボジア	知能情報工学科	3年
ラベニリナ アイナ チウリ	男	マダガスカル	電子情報工学科	3年
アハマト アミルル ビン ラハマト	男	マレーシア	電子情報工学科	3年
ムハマト リッズアン ビン ジュソー	女	マレーシア	電子情報工学科	3年
デウイ ノールシッタ アシダ ビンティ アブドゥル アジズ	女	マレーシア	知能情報工学科	3年
元 政現	男	韓国	機械情報工学科	3年
康 鉉宇	男	韓国	生命情報工学科	3年
モハマト アリムティン ビン モハマト アリ	男	マレーシア	電子情報工学科	4年
カイルニサ ビンティ アハマト テニー	女	マレーシア	電子情報工学科	4年
グエン ティ ビック ハウ	女	ベトナム	知能情報工学科	4年
張 国卿	男	中国	機械情報工学科	4年
**大学院生(マスター)**				
王 全	男	中国	先端情報工学(知能)	1年
孫 志遼	男	中国	情報創成工学	1年
羅 凱翔	男	中国	先端情報工学(電子)	1年
柳 植龍	男	中国	学際情報工学(システム創成)	1年
趙 明慧	女	中国	学際情報工学(機械)	1年
陳 存存	女	中国	学際情報工学(生命)	1年
賀 翔雲	女	中国	情報創成工学	1年
章 御聡	男	中国	情報創成工学	1年
王 新宇	男	中国	情報創成工学	1年
崔 冠瑛	男	中国	情報科学(システム創成)	1年
金 曲鳴	男	中国	情報科学(知能)	2年
エハニア リサル	女	インドネシア	情報科学(システム創成)	2年
スプリ ビン アミル	男	インドネシア	情報科学(システム創成)	2年
張 思嘉	男	中国	情報科学(システム創成)	2年
ヘルティアンティ ダルウイス	女	インドネシア	情報科学(システム創成)	2年
楊 驍睿	男	中国	情報科学(システム創成)	2年
邵 正	男	中国	情報科学(生命)	2年
耿 聃陽	男	中国	情報システム(電子)	2年
舒 夏	女	中国	情報システム(電子)	2年
スウオン ウァン ホップ	男	ベトナム	情報システム(電子)	2年
フイリアニ ウマル ムイン	女	インドネシア	情報システム(電子)	2年

デディ アトマジヤ ムトハ	男	インドネシア	情報創成工学	2年
裴 蕾	女	中国	情報創成工学	2年
武 菁	女	中国	情報創成工学	2年
李 一	男	中国	情報システム(電子)	2年
張 於	女	中国	情報科学(システム創成)	2年
韓 リャン	女	中国	情報科学(システム創成)	2年
文 琦	女	中国	情報科学(生命)	2年
**大学院生(ドクター)**				
トラン ティ タオ グエン	女	ベトナム	情報工学(電子)	1年
グエン ヘト ハ	男	ベトナム	情報工学(電子)	1年
李 虎軍	男	中国	情報工学(生命)	1年
シャミム ウル ハサン	男	バングラデシュ	情報工学(生命)	1年
李 富強	男	中国	情報創成工学	1年
マフディッター	男	インドネシア	情報創成工学	1年
ロスマ ヤニ アムラン	女	インドネシア	情報創成工学	1年
曾 鑫	男	中国	情報創成工学	1年
スラット ジャハン	女	バングラデシュ	情報科学(生命)	2年
アグサリム	男	インドネシア	情報システム(電子)	2年
ナナ ステイスナ	男	インドネシア	情報システム(電子)	2年
セタウット トウアンチャン	男	タイ	情報システム(電子)	2年
ウイサヌ ジットウイリヤ	男	タイ	情報システム(機械)	2年
サクモンコン チュムカモン	男	タイ	情報システム(機械)	2年
ハハドウル モハマト ハッチャ	男	バングラデシュ	情報科学(生命)	2年
グエン ダン コア	男	ベトナム	情報システム(電子)	2年
トラン ティ ホン	女	ベトナム	情報システム(電子)	2年
ナム テク カイ	男	ベトナム	情報システム(電子)	2年
ナルディ ニルマント チョンドロネゴロ	男	インドネシア	情報創成工学	3年
ジュナイダ ビンティ スレイマン	女	マレーシア	情報科学(システム創成)	3年
ノーリン モハマト アリ	女	マレーシア	情報科学(生命)	3年
李 彦廷	男	中国	情報科学(知能)	3年
王 卓	男	中国	情報科学(知能)	3年
ピハット パイサーンパヌマース	男	タイ	情報システム(機械)	3年
アドリアーノ アルベルト リマ テ アレア レオン ムニース	男	ブラジル	情報システム(電子)	3年
**研究生・特別聴講学生**				
アウイナッシュ テウ ナグマントウリ	男	インド	情報システム(機械)	研究生
秦 浩育	男	中国	学際情報工学(システム創成)	研究生
徐 叡源	男	韓国	電子情報工学科	特別聴講学生
ソ チ キウ ニコル	女	オーストラリア	情報創成工学	特別聴講学生
ジャン アルバート	男	オーストラリア	情報創成工学	特別聴講学生
周 承彦	男	台湾	学際情報工学(システム創成)	特別聴講学生





## 近畿大学産業理工学部

---

## ●学年暦

平成 26 年度 近畿大学産業理工学部学年暦

### 前期

<b>4月</b>	3日(木)	・ガイダンス (学部 2～4 年、大学院 1 年)
	4日(金)	・入学式
	5日(土)	・健康診断、安全・防犯講習会
	7日(月)	・前期授業開始、桜まつり
	7日(月)～11日(金)	・教職課程受講手続期間
	7日(月)～18日(金)	・教科書販売期間
	14日(月)～18日(金)	・履修登録期間
<b>6月</b>	上旬	・リクナビ・マイナビ登録会 (3 年)
	中旬	・就職ガイダンス (3 年)
<b>7月</b>	5日(土)	・大学院入試
	16日(水)～29日(火)	・前期定期試験期間
	19日(土)	・学内 TOEIC テスト
	26日(土)	・オープンキャンパス
<b>8月</b>	4日(月)・5日(火)	・前期追試験期間
	6日(水)～	・夏期休暇開始 9月11日(木)迄
	23日(土)	・オープンキャンパス
	30日(土)・31日(日)	・保護者懇談会 (飯塚)
	下旬	・成績発送予定

## 後期

9月	6日(土)	・保護者懇談会 (大阪・長崎・大分・香川)
	7日(日)	・保護者懇談会 (鹿児島・山口・福岡)
	12日(金)	・ガイダンス (全学年)
	13日(土)	・大学院入試
	15日(月)～	・後期授業開始
	15日(月)～26日(金)	・教科書販売期間
	22日(月)～26日(金)	・履修登録修正期間
	28日(日)	・オープンキャンパス
11月	1日(土)・2日(日)	・大学祭
	5日(水)	・創立記念日
	上旬	・就職特別ガイダンス (3年)
	下旬	・リクルート用写真撮影 (3年)
12月	25日(木)	・冬期休暇開始 1月8日(木)迄
1月	9日(金)	・授業再開
	9日(金)・14日(水)・15日(木)	・後期定期試験期間
	16日(金)	・センター試験準備 (午後：学内入構禁止)
	17日(土)・18日(日)	・センター試験 (学内入構禁止)
	19日(月)～27日(火)	・後期定期試験期間
	24日(土)	・学内 TOEIC テスト (予定)
	下旬	・転学部・転学科説明会
2月	2日(月)・3日(火)	・後期追試験期間
	21日(土)	・大学院入試
	下旬	・成績発送予定 (4年)
3月	下旬	・成績発送予定 (1～3年)
	31日(火)	・年度終了

平成26年5月30日

## 近畿大学 産業理工学部 平成26年度 留学生名簿

### 《産業理工学部》

氏名	カナ	性別	国籍	学部	学科	学年
任 翔	ニン ショウ	男	中国	産業理工学部	建築・デザイン学科	1
林 竝逸	リン ホンイ	男	台湾	産業理工学部	建築・デザイン学科	2
河 叶合	ハ タツム	女	韓国	産業理工学部	建築・デザイン学科	4
呉 承勲	ゴ ショウケン	男	台湾	産業理工学部	経営ビジネス学科	4

### 《大学院》

氏名	カナ	性別	国籍	学部	専攻	学年
呂 欣树	ロ キンジュ	女	中国	産業理工学研究科	産業理工学専攻	M1

### 《台湾・虎尾科技大学からの短期留学生》

氏名	カナ	性別	国籍	学部	主に講義を受ける学科	虎科大 学年
李 嘉琳	リー ジャリン	女	台湾	産業理工学部	建築・デザイン学科	三年級甲班
陳 昱安	チェン ユーアン	男	台湾	産業理工学部	経営ビジネス学科	二年級乙班
游 佳綺	ヨウ ジャーチー	女	台湾	産業理工学部	経営ビジネス学科	二年級甲班
林 芸薇	リン ユンウェイ	女	台湾	産業理工学部	経営ビジネス学科	一年級甲班



公立大学法人 福岡県立大学

---

# 福岡県立大学 2014(平成26)年度 学年暦

## 【前期】

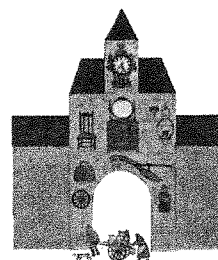
4月 1日 (火) 前期開始  
4月 7日 (月) 入学式  
4月 8日 (火) オリエンテーション  
4月14日 (月) 前期授業開始  
5月10日 (土) 開学記念日  
8月 4日 (月) 前期定期試験  
～8月 8日 (金)  
8月 9日 (土) オープンキャンパス  
8月 9日 (土) 夏季休業  
～9月30日 (火)  
9月30日 (火) 前期終了

## 【後期】

10月 1日 (水) 後期開始  
10月 1日 (水) 後期授業開始  
11月 7日 (金) 全学休講  
11月 8日 (土) オープンキャンパス  
11月 8日 (土) 大学祭  
～11月 9日 (日)  
11月22日 (土) 推薦入試  
12月23日 (火) 冬季休業  
～1月 4日 (日)

## 2015(平成27)年

1月 5日 (月) 授業再開  
1月16日 (金) 全学休講  
1月17日 (土) センター試験  
～1月18日 (日)  
2月 3日 (火) 人間社会学部卒論発表会  
2月 6日 (金) 後期試験期間  
2月 7日 (土) 大学院入試(春季)  
2月 9日 (月) 後期試験期間  
～2月13日 (金)  
2月14日 (土) 春季休業  
～3月31日 (火)  
2月25日 (水) 一般入試前期日程  
3月12日 (木) 一般入試後期日程  
3月19日 (木) 卒業式  
3月31日 (火) 後期終了



## 参加留学生リスト

No.	国	母国大学	福岡県立大学	氏名
1	韓国	大邱韓医大学校	社会公共学部 1年	黄 智愛(ファン・ジエ)
2	韓国	大邱韓医大学校	社会公共学部 1年	李 賢知(イ・ヒョウンジ)
3	韓国	大邱韓医大学校	社会公共学部 1年	尹 鍾文(ユン・ジョンムン)
4	韓国	大邱韓医大学校	社会公共学部 1年	方 暢培(バン・チャンベ)
5	韓国	大邱韓医大学校	社会公共学部 1年	申 東碩(シン・ドンソク)
6	中国	南京師範大学	社会公共学部 1年	黄 菊(コウ・キク)
7	中国	南京師範大学	社会公共学部 1年	宋 吉(ソウ・キチ)
8	中国	南京師範大学	社会公共学部 1年	郑 捷(テイ・ショウ)

計 8 名



## 飯塚国際交流市民のつどい2013

スピーチ・コンテスト（12月8日）

高校生による英語スピーチ、外国人による日本語スピーチより数個紹介します。（一部分）

### 留学生及び研究生数（内数）（2013.12.1 現在）

	国 籍	九州工業大学 情報工学部	近畿大学 産業理工学部	福岡県立大学	飯塚高校
1	韓 国	4	1	7	3
2	中 国	39	3	6	20
3	バングラデシュ	2			
4	マレーシア	6			
5	インドネシア	11			
6	ベトナム	7			
7	台 湾	0	7		
8	ブラジル	1			
9	タイ	12			
10	インド	1			
11	オーストラリア	2			
12	アルゼンチン	1			
13	カザフスタン	1			
計		87	11	13	23

飯塚国際交流推進協議会  
事務局 飯塚市総合政策課  
TEL 0948(22)5500  
FAX 0948(22)5754



Life is a Blank Canvas  
人生は白いキャンパス

飯塚高等学校  
おう けいれい  
王 敬齡

If my life is a canvas, then what kind of picture am I painting?

Let me introduce my favorite Chinese poet, Li Bai.

行路難

行路難

多岐路

今安在

長風破浪会有時

直挂雲帆濟滄海

Traveling is hard!

Traveling is hard!

So many forks in the road-

Which one to take?

A great enterprise must find the right moment;

I hoist my sail into the clouds and cross the mighty ocean.

Li Bai was a promising young man. People those days expected him to take up a government post, which was the common path for the talented young man, but it was not to be. He served the emperor briefly, but was dismissed from court within two years because of his unpredictable behavior. Wondering was a life-long habit for Li Bai. Although declining in health, he continued to travel during the last years of his life. Legend told us that he drowned when he was in a boat one night, and was determined to embrace the moon that he saw reflected in the waters.

I love Li Bai and admire his genius. I want to paint my life on a blank canvas just like Li Bai wrote poetries in his life time. My new life here in Iizuka has just started. Last month I came to Japan from Dalian for study. Life in Dalian has many things to do with Japan. My senior high school which I'm proud of was built by Japanese architecture at first. When you walk through the streets of Dalian, you can see many footsteps of Japanese people everywhere. But very few Chinese people know who Japanese people were and what they were dreaming of. I am curious to know that. So I am here. To my surprise, Japanese people know China much more than we do. I watched so many TV programs concerning China and its people and saw so many books about China and its culture at book stores of Japan. I wonder what a difference between two countries is. One of my friends said to me, "If we want to know about us profoundly, go to Japan!"

I am bravely enough to say that I prefer a hard road just like Old Li Bai did. I could have passed a prestigious university of China, but I want to cross the mighty ocean.

Now is the time I must find a great enterprise and now is the time I must hoist my sail into the world. My expectation on studying in Japan is so huge that I must take care of myself not to drink wine too much and go forward step by step and one by one, which Li Bai failed to do. Thank you very much for your attention.

Yoisa! Yoisa! Yoisa!

Hi, everyone. First of all, I have a question to ask. What is the thing Japanese people like most? Baseball? Soccer? Sumo? No. No. The answer is, of course, festivals. In our town, Iizuka, we have a festival called "Gion Yamakasa." When July comes, I become restless, itching to go outside and carry the Yama, or a float. Do you know the origin of our festival? It originated 280 years ago, when a bad plague was spreading in the western part of Japan. And it caused a lot of damage to the agricultural products. People at the time prayed to God to save their lives and products. That was the origin of our festival.

Festivals in our time are varied in nature and held in various parts of the world. I, as an authority of festival research, sometimes ask myself the next question, "What is the reason why festivals are loved so much around the world?"

I am sure our ancestors have the answer. They firmly believed in God, but needless to say, God was an absolute being. So, they tried to get near to almighty God. Festivals made it possible for them to do it. They thought that God didn't exist in ordinary space, but in extraordinary space. However, festivals were the only occasion when God and human beings existed together at the same time. On top of that, human beings didn't forget to enjoy themselves. This was a way for them to vent their frustrations. In this way, they indulged in the festivals.

By the way, have you ever seen Iizuka Yamakasa festival? Oh, it's superb. We carry the Yama which is 7 meter in length, 2 meter in width and about one ton in weight. We start from Noso Hatimangu Shrine and run 2.2 kilometers, shouting, "Yoisa,! Yoisa! Yoisa!" People along the street splash water on the carriers so that they can rush to the goal quickly and safely. When you concentrate on carrying the Yama, your worries, troubles, and misgivings will disappear.

You will feel nothing. You might call this being in a state of mental ecstasy. During this time, a sense of unity or human bond is being developed among the people who are carrying the Yama and even the people who are splashing water.

Nowadays, it is often said that Iizuka has been suffering from the economic depression. Sorry to say, there are lots of closed stores along the Honmachi Street. Every time I join the festival, I always feel we are all strongly and warmly bound together by love for our town, "Iizuka."

I am sure that we will be able to overcome this depression by the force of carrying the Yama together.

Thank you for listening.

Now! Everyone. What country do you think I am from? China? Korea? Or maybe Japan? The other day, I had a chance to attend a meeting for Asians with my friends. There I couldn't tell who was from what countries. In other words, I couldn't tell their nationalities by their appearances.

To me this brought home the fact that our roots are almost the same. After that, one after another a lot of uncontrollable worries came to mind. "Why can't we live friendly together in spite of the same roots?" "What in the world causes Korean and Japanese to fight over Takeshima Islands?" "Why on earth are the Chinese and Japanese fighting over Senkaku Island" And "Why did the people in China attack the Japanese restaurants and department stores in a row?" "Why do some Japanese try to justify the damages they caused to Asian countries during the World War II?" These kinds of questions continuously appeared in my mind, and went out of control. At last I found myself questioning my own existence.

"Who on earth am I?" "Who are my ancestors?" They may be Chinese, Korean or Japanese. Nobody can tell. Some people tend to say without much consideration, "Be kind to your neighbors and let bygones be bygones." This easy-going attitude will lead us nowhere. It doesn't help us to find a common ground on which we can stand together. Needless to say, we have to face our Asian history and learn a lot of lessons that are hidden there. For example, some problems related with the conflict between Korea and Japan still remain deeply rooted even in the small region of Chikuho. More than 100 years ago, many Korean people were forcibly brought to Kyushu and were ordered to work in the coal mines of that region. They were deprived of their home towns and human rights. Who is it that can compensate for this crime?

Another incident that I can't forget is the Nanking Massacre. Many Chinese commoners, including old people, women, and small children, were killed by Japanese soldiers in the Chinese capital, Nanking. This is an undeniable fact. Japan sacrificed China in order to promote its imperial profits and interest. Again, in this case, who is it that can make up for this crime?

Being confronted with these problems, I have no idea how I should behave. I'm being overwhelmed by these historical facts. I have no clue how to find the way out.

By the way, please look at my costume! This is, of course, a traditional Chinese costume. I have an idea. How about trying on a Chinese costume and imagine what it would be like to be a Chinese. It is certainly important to assert yourself, but it is no less important to try understanding other people and feel the same way they do by putting yourself in their shoes. This Chinese costume seems to give me a key to approaching the difficult problems that I thought were overwhelming me.

Now I have a goal that I aim to accomplish in the future. I would like to do something for Asian countries. So, someday I would like to go to other Asian countries and live there for a while. Then I will put on their clothes and learn their languages. Because through direct

"Living proudly as Japanese"  
日本人として誇りをもって生きる

嘉穂高等学校  
いわもと めぐみ  
若本 恵

Sometimes I think, "Why am I Japanese? Just because I was born in Japan?, My parents are Japanese?, I have a typical Japanese face? I speak Japanese?"

I experienced an exchange year in Germany where someone who I didn't know would often look at my face and say "Hey, Chinese!" Every time they said that, I said to myself, "I'm Japanese, not Chinese." I am very proud of being Japanese.

One day in history class, I learned about Hiroshima and Nagasaki. It was mentioned in a tiny article in our history book called "What happened in Asia during the World War II?" Of course, my history teacher asked me "How did you learn about it in your country?" We spent so much time learning about this nightmare on earth. My grandfather is a survivor of the atomic bombing in Nagasaki. Unfortunately, his life was too short. He died when my mother was a little girl. His sister was also a victim of the atomic bomb, so she told me her tragic experience. However, I couldn't answer the following questions by my teacher. "Why did America carry out the atomic bombing?" "What do Japanese people think about it?" "Why does Japan have a friendship with the enemy?" Even if I could speak German fluently, those questions were too difficult to answer. I was embarrassed that I couldn't explain the most unforgettable event in Japanese history even though I am Japanese. Then I thought, could you be Japanese if you didn't know about Japan?

One day, my geography teacher asked me to make a speech about the tsunami that struck Japan two years ago. He said "You came from Japan so you must know about it, that's why I asked you". Honestly, I didn't have enough knowledge for the speech because my hometown had not suffered much damage from the tsunami. I searched and collected information about this disaster as much as I could. For the students to see the real truth I showed an effective documentary in which many vicious waves had swallowed up and swept away lives. They all were speechless, surprised and fear showed on their faces. However it changed the way they looked at Japan. One of the students told me, "I thought I never wanted to go to Japan, however there are many people who believe that Japan can revive. They helped and supported each other, regardless of generation, profession, or rank. What a beautiful story!" I felt very satisfied with that in some ways.

Every exchange student can be an ambassador for their country. When you go abroad, you might learn a different language and culture. However, you have to know your own culture. You have to be Japanese before you get along with your surroundings. You have to show Japanese culture. I regret not having learned much about my own country before my exchange year. What will you do when you are asked about your own country by a foreigner? Can you proudly introduce your own country? It would be a dishonor if you disappoint your country. I'd like you to be interested in your own country, and be proud of being Japanese.

contact with the people and cultures there, I hope I can find a way for us to live and cooperate together in peace.

Thank you for listening.

私は今年 10 月に中国の西安から飯塚に参りました。現在、飯塚高校で日本語を中心に来年の大学受験に向けて毎日頑張っています。来日早々、飯塚市では伝統的に「外国人による日本語スピーチコンテスト」が開催されていることを知りました。何事も積極的に日本人の文化習慣の中に飛び込むことが重要だ、との父の進言により、勇気を奮い、このコンテストに参加することにしました。

昨年、私と同郷の先輩が、こちらのコンテストに出場し、「私の夢」という題目で、中国における糖尿病の実態を紹介したと聞きました。本日は、その続きとして、後輩の私が、更に詳しく、数字などを交えまして、皆さんにご説明したいと思います。

中国は今では、世界で糖尿病患者が最も多い国です。既に糖尿病にかかっている人々の数はアメリカの人口を上回っています。アメリカの医師会が発行した雑誌、「ジャーナル・オブ・ジ・アメリカン・メディカル・アソシエーション」に掲載された調査によると、中国の 18 歳以上の成人の推定 1 億 1390 万人、(その内、男性は 6050 万人、女性は 5340 万人)が 2010 年に糖尿病を発症していた可能性があるそうです。この調査は同じ年に、中国の成人約 9 万 9000 人を対象に実施されました。その調査によると、2010 年には 4 億 9340 万人の中国人が「前糖尿病」、つまり、血糖値が通常を上回る水準にあって、潜在的にリスクの高い状態である状況だった可能性があるのだそうです。

この結果は驚くべきで、中国が人民の大きな健康問題に直面していることを示しています。更に、このアメリカの医師会の雑誌は、「このようなデータは、中国の一般人民の糖尿病が警戒水準にまで達している可能性があることを示しており、もし、このまま中国政府が効果的な予防策を講じなければ、近い将来、中国で循環器疾患や脳卒中、慢性腎疾患などの糖尿病関連の合併症が蔓延しかねない」と警告しています。

さらにこの調査によると、中国人はアメリカ人と比較して、低い肥満度数で糖尿病を発症しており、特に、都市部の太りすぎの若年・中年層に一段と多いことがわかりました。人口約 13 億 4000 万人の中国には、過去 10 年間に巨額の富が集まりましたが、人民が豊かになるにつれて、食習慣や都市部への移住など、ライフスタイルが大幅に変わり、そのため人民の健康が危険に晒されることになったのです。中国保健省の統計によると、死亡の主因は感染症や食生活に関連した欠乏症から、高血圧や肥満へとシフトし、今では全人民のうち 2 億 6000 万人以上が慢性疾患に罹っているそうです。

中国の医療保険制度がこうした新たな医療負担にどう対処するかは、今後の課題だと思います。世界保健機関・WHOによると、既に、中国政府による医療関連支出の 80%超が人民の慢性疾患に関連した費用に回されているそうですが、第 1 次予防に向けられているのは、未だ 2%に過ぎないそうです。

国が豊かになることは喜ばしいことです。しかし、健康であってこそその真の幸せだと思います。私も、この問題を、私自身の問題と考え、国の発展と幸福に寄与したいと願っています。

皆さん、ご静聴、ありがとうございました。

ただの思い出だけじゃない

福岡県立大学  
しん みよんはん  
申 明煥

こんにちは。今年の4月から交換留学のため韓国のソウルから参りましたシンと申します。専攻は社会福祉なんですけど、趣味として2年間勉強した日本語のおかげで今福岡県立大学で勉強しています。そしてこの留学は来年の2月までですので、私はもうあっという間に韓国へ帰ることになるでしょう。

帰国前のこの時期になると留学生からよく聞こえるセリフがあります。それは「日本に来てたくさんの思い出が出来ました。私はこの思い出を絶対忘れません。ありがとうございました。」と言う言葉です。なかなか分かり切った言葉だと思いますが、正直言って私はこの表現が嫌いです。なぜならその人の意図に関わらず、それは「もう日本は行かない」と言ってるように聞こえてしまうからです。

自国ではなく外国に行き1年間、それもただの住むだけじゃなく留学するということはその時点でとても珍しい経験だと思います。こんな新しい環境の中で生活すると誰であっても一生忘れられないことがたくさん出来るでしょう。私だって誰にも負けないほど色々な思い出があります。自炊しながらカビと一緒に住んだり、最終バスを間違っって飯塚から田川伊田まで20km歩いて来たり、真夜中にパンツ姿で筑豊線の線路を歩いたり、こう言うとなんか頭おかしい人になった気がしますけど私には全て貴重な経験でした。こんなのは事故にあわない以上いつまでも記憶に残る宝物だと思います。

だから私はここに来て受けたたくさんの経験、知識、ぬくもり、愛に答えて必ず恩返しをしなければなりません。そして私の周りの人を通して大勢の人に私の経験からお互いの国の理解に役立ってもらいたいです。これこそがお互いの国、大学がわざわざお金を払って留学を支援してくれる理由だと思います。だからここでの生活をただの写真のような思い出にするわけには行けません。もう私たちの一部だからです。この経験に踏まえてお互いの関係を深めるのが私たちのやるべきことです。だから私は日本での生活が終わってくる人々に「ありがとうございました」じゃなくて「これからもよろしくお願いします」と言ってもらいたいです。

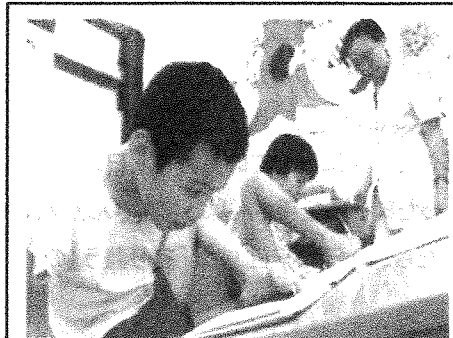
発表は以上です。ここにいらっしやる皆様にも、これからよろしくお願い致します。

皆様、科学技術のおかげで、私たちの生活は大変便利になりました。しかし、科学技術の発展には良い面ばかりではなく、脅威も存在します。私は一番大きな脅威は先端技術が使用される戦争で地球が完全に荒廃することだと考えています。戦争について皆さんはご存知かもしれませんが、ベトナムの戦争では30年間で約500万人がなくなりました。戦争が終わった現在でも、約300万人ものダイオキシン毒の被害者が毎日苦しい生活をしています。また、核兵器が原因で、日本の広島では約14万人、長崎では7万4千人が亡くなりました。我々はそれらの痛みを忘れることはできません。現在、世界には1万7千発以上の核弾頭が存在しています。もし、また戦争が起こると、その核弾頭のうち数百発だけを使用しても、地球全体を破壊できると警告されています。したがって、地球や人類などを守るために戦争の防止し、世界平和を守るのはすべての国の人々の緊急な課題なのです。

平和を守るために、何をすればいいのでしょうか？まず、平和が実現できていない理由を考えましょう。私の考えは各国の利益の衝突と人々の相互理解できないのが二つ主な理由です。世界には肌の色、人種、宗教などが違う人々がいますが、どの国の国民も思いやりの心や平和の望みがあると思います。しかし、各国の言語や文化や地理などが違うので、各国の人々が相互に理解しにくい。相互理解できない時、利益が衝突すれば、各国の国民は衝突に関する悪い事しか見えないので、各国の関係はどんどん悪くなり、平和を守りにくくなります。一方、相互理解ができれば、各国の人々はどんな国もよい所やまだよくない所が存在すると分かるから、他国の良い所を賞賛したり尊敬したり見習ったりします。また、まだ良くない所を非難せず、できれば良くなるように手助けします。ゆえに、各国が相互に好意や尊敬を持つようになるから、私は利益の衝突があっても、解決しやすくなると信じます。そのため、私は世界平和のために相互理解は非常に大切な鍵だと思います。

現在、各国は自分の国を守るために色々な兵器を買ったり、製造したりしていますが、この活動は世界平和にとって悪影響です。私たちはどんな国の国民でも一緒に同じ地球に住むものなので、自分の国だけを守らず、地球の安全と世界の平和も考えてください。私は各国のリーダーが軍備の拡大をやめて、人々が相互理解に目を向けるように指導して欲しいと思います。

私の発表は以上です。ありがとうございました。



ベトナムのダイオキシン毒原因での  
被害者

<http://vietbao.vn/The-gioi/Toa-an-My-bac-do-n-kien-cua-nan-nhan-da-cam-VN/20770098/159/>

主要メンバー：

理事長 縄田修

(ナワタ消化器外科医院院長、九州工業大学客員教授)

副理事長 (留学生担当) 千々和敬明

(本誓寺住職、飯塚ボーイ・ガールスカウト会長)

副理事長 (青少年育成担当) 兼事務局長 正田英樹

(ハウインターナショナル会長、九州工業大学客員教授)

理事 (企画・渉外担当) 橋本博之 (筑豊宏済会理事長 元橋本病院院長)

監事 宮嶋正夫 (福豊帝酸会長、元福岡県公安委員長)

監事 榎本広明 (薬局経営)

顧問 片峯誠 (飯塚市教育長)

顧問 綿貫雅一

(元米州開発銀行 セクター・ナレッジ副総裁総局地域統合・貿易セクター)

顧問 マーク・カトウ (サニーベール姉妹都市協会会長)

## 後 援 団 体

九州工業大学、近畿大学、教育委員会、飯塚市小中学校 PTA、飯塚国際化推進協議会、飯塚医師会、飯塚病院、ロータリークラブ、ライオンズクラブ (飯塚、穂波、筑豊、庄内、飯塚竜王) 国際ソロプチミスト飯塚、飯塚青年会議所、ボーイスカウト・ガールスカウト、SGCクラブ、飯塚高校、飯塚商工会議所

平成 26 年度会員

秋元正幸、有吉 崇、井上有比古、牛島正和、牛島ミツヨ、榎本広明、奥村守男、越智拓生、梶原健伯、茅島 勲、神田 徹、栗原公司、齋藤幸二、齋藤守史、佐藤研二、沢田清司、柴田 務、柴田 康、正田英樹、千々和敬明、荘田朋子、田代隆博、津川 信、角田信昭、縄田 修、野田孝親、橋本博之、樋口誠司、深見 強、藤木徹雄、松口武行、松隈隆和、嶺 敬二、宮嶋正夫、元山福仁、森田 潤、嶋田吉勝、山本信行





---

編集者、発行者： 飯塚友情ネットワーク、留学生フロント

連絡先： 〒820-0044  
福岡県飯塚市横田334 縄田 修  
電話番号 0948-24-2303  
(ナワタ消化器外科医院気付)

---

Published by : Iizuka Friendship Network & Ryugakusei Front

Contact Person : Osamu Nawata  
334 Yokota, Iizuka, Fukuoka  
Tel. 0948-24-2303 〒820-0044

E - m a i l : [nawata@f5.dion.ne.jp](mailto:nawata@f5.dion.ne.jp)

---

発行日 平成26年6月